

2009.10
VOL.19

おとうふ日和

まいにちのおとうふは、どんな薬にも勝るもの。
そのままよし、煮てもよし、焼いてもよし。本物の食は、すぐここにありました。

こんにちは。株式会社手造り屋 社長の岩崎勉です。

今月は100年に一度の大不況下であり、食と農のことの関心が強まり、政権も交代し、世の中変わろうとしています。そういう情勢下ですので農と食、商売について一言...

私と同じ名字で、岩崎正男さん。桶川市の市長さんです。私と同じ地域ですので聞くところによると、大昔は親戚であろうと言っていました。自分でそば作りをして無農薬、有機栽培で安心できる蕎麦を、地域の人に供給するのが趣味です。市長さんの考えと私の肥料屋時代子供のころ見たことをまじえて考えて見たいと思います。農と自然には教えられます。

麦踏み 苗を強くするためにする作業

私も経験があります。寒くなると霜がおりて土が(霜柱といいますが)盛りあがって苗が倒れたり、土の栄養を十分吸えないので、足で踏んで歩く作業です。

商売も土台がしっかりしていないと揺らいでしまいます。今安心できる商品を作ろうと思っても、低価格品、仕入先などの要望にこたえると土台が揺るぎます。信念をもって安心できるものを売買すべきです。

土用干し 太陽の強い日差しをあてることで水分、色、などよくしエネルギーをもらい日光消毒になります。前回天日干しを書きましたが同じようなことです。

こうして育った食品は素材も良く、美味しく、体によいこと間違いなしです。

今は残念ながらこうして育った農作物は食べたいが、ほとんど手に入りません。

商売でも成功している人の情報またエネルギーをもらい、自分もエネルギーを蓄え良いものを与えてこそ喜ばれる商人と言えらると思います。

剪定 のびすぎた枝を切ることで、新しい芽が出、来年、新しい良質な実がなる木を作ります。

商売もどんどのびてしまうと、本物製品の維持、人の教育など、色々な面で追いつかず、本来の目的である人びとに喜ばれる価値ある商売ができなくなるので、果物の木と同じだなと感じます。

(写真は梨の木の徒長がのびた状態、剪定をして蓄えた栄養がむだにならないように、来年も立派な木が生まれるよう

また美味しく、食べてもらえるよう農家の人は頑張っています)



さつまいもの苗は、ぴんとした苗より、ぐたっとした苗を植えたほうが良く育つ

ぴんとした苗は養分をもっているのだから土から吸おうという努力をしないので枯れてしまい、ぐたっとした苗は養分を吸おうと必死になって根をはり生長する。

商売も自然に伸びるときは人間努力を怠りがちです、いまのように不況下だからこそ！

元気のない企業だからこそ！さつまいもの苗を思い出し、周りから情報をたくさん吸収して、また、農から、自然から学び、原理、原則に沿うことが教えられます。

拡大しなくても、小さくても、価値ある仕事をしたいと思っています。